

資料

山口県佐波川工業用水道事業の紹介

○ 事業の主旨

佐波川工業用水道事業の給水区域である防府市は、山口県中央部の瀬戸内沿岸に位置し、古くから海陸交通の要衝であり、政治・文化・産業の中心地として栄えてきており、数多くの歴史的遺産をも有するまちである。広大な平野も、一級河川佐波川、重要港湾三田尻中関港を有し、自然的・地理的条件に恵まれており、歴代藩公が特に力を注いだ360万 m^2 の塩田跡地を埋め立て造成された工業用地には化学、自動車、繊維、食品、たばこ等の企業が進出しており、当事業はこの地域の企業へ工業用水を供給するものである。

○ 事業の経緯

佐波川工業用水道は、昭和42年4月から給水開始となり、水利権109,300 m^3 /日のうち87,000 m^3 /日を河口5.5kmに新設する第一取水口とこれからさらに550m上流の第二取水口とで給水を開始した。

当時の工業生産の伸びにより新たな水の需要が発生したことから昭和45年から既得水利権の残量22,300 m^3 /日の増量工事に着手した。

その後、工業用水の更なる需要が生じ白井谷からの余水取水工事が追加され、昭和49年に4,800 m^3 /日の増量工事は完了した。

※ 第二取水口：概に企業が自社施設により河川伏流水24,000 m^3 /日取水していたが、この施設能力に余裕があることから、全施設を県との共同施設とすることで協定を締結し、県が48,000 m^3 /日を取水することとした。

近年、社会経済情勢の変化により工業用水の給水量が減少してきており、経営健全化計画を押し進めている。

○ ユーザーの概要

(平成19年4月1日現在)

業種	給水件数	契約水量 (m^3 /日)
化学	2	21,900
その他	7	34,400
合計	9	56,300

○ 工業用水道施設の概要

佐波川に埋設する多孔ヒューム管から導水し、ポンプ圧送にて防府市内の各企業に給水している。

第一取水場での集水管は管径1,200mm～1,000mmで延長620mであり、ポンプ井からポンプ圧送による配水管は管径700mm～150mmで送水し延長17,346.1mである。

第二取水場での集水管は管径1,200mmで延長542mであり、ポンプ井からポンプ圧送による配水管は管径1,200mmで送水し延長3,614.5mである。

○ 事業の特徴

- ・各ユーザーへの配水は原水供給であるが、きれいで、水質もよい水である。
- ・二期工水管と接続し、ループ運用を行うことで工業用水の安定供給を図っている。

○ 工業用水道概要図

次ページ

○ 山口県企業局のホームページアドレス

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a40100/index/>

